



『AIと人間の共生』～便利な生活と、人間らしくより良い生き方を求めて～

校長 関 勝 志

昨年11月に公開された、対話式のAI「ChatGPT」が話題を呼んでいます。わずか2カ月でユーザーが1億人を突破したとの報道がありました。また、先日群馬県で行われた先進7カ国（G7）デジタル・技術相会合では、文章や画像を作る生成AIの急速な利用拡大による情報流出や著作権侵害などを懸念し、AIの開発や利用のルール作りが協議されました。

「ChatGPT」は、大規模言語モデルに基づく「Chatbot（チャットボット）」です。「チャットボット」とは、「チャット（会話）」と「ボット（ロボット）」を組み合わせたもので、自動会話プログラムのことです。私たちは知りたい情報を得るためにパソコンやインターネットを活用していますが、それはキーワードを入力して検索し、たくさんある情報の中から自分が必要な情報を選択するという形です。しかし、「ChatGPT」は、生徒が先生に質問するように『〇〇について分かりやすく説明してください』と入力すると、早ければわずか数秒でAIが自動で文章を生成して回答します。レポートや論文も、テーマを入力すれば簡単に作成することができます。そのしくみは、Web上にある大量のデータを学習し、文脈やパターンなどを理解して次の単語や文章を推測して答えています。人間の脳内の神経細胞ネットワーク（ニューラルネットワーク）を模したシステムをもっているようです。

「ChatGPT」が便利なツールであるのは事実ですが、これを中学生が使うことには不安があります。

【不安①】 情報の信頼性

AIが生成する文章は、必ずしも正しいとは限りません。Web上に間違った情報があれば、間違った回答をすることもあります。また、AIがその文章を理解して回答しているわけでもありません。

【不安②】 判断力・創造力・表現力

私たちは、発表したり、人に伝えたりする文章を作成する上では、情報の信頼性や妥当性を吟味して取舍選択したり、表現の適正化を図ったり、文脈を整えたりします。また、味のある文章や分かりやすい文章を作成するためには、比喩表現やオノマトペ（擬声語、擬態語）といった表現技法も活用します。そして、推敲を重ね、自分が納得して、ようやく文章は完成します。

これに対して、AIは、あっという間に、まったく違和感のない文章を作ることができます。ともすると人間が頭を使って行う作業をしなくても済んでしまいます。AIを過信し頼りすぎると、子どもたちの判断力や創造力、表現力を低下させることにもつながりかねません。

未来社会「Society5.0」において、AIを効果的に活用する必要があることは間違いなく、個別最適な学びにも有効なツールだと思いますが、正しく理解し、適正に利用しなければなりません。人間の学習能力や人間性（人間らしさ）が失われてしまうのではないかとこの危惧を感じます。

また、人間の都合に合わせて必要な情報をくれたり、話し相手になったりするAIとのやりとり（対話）に依存してしまうと、インターネットを介したコミュニケーションがさらに進み、偏りが生じることが考えられます。人間をリアルにシミュレーションする技術「デジタル・ヒューマン」も近年急速に注目を集めており、AIがより人間味を持ち、共感をもたらす対話を目的としています。相手は人間ではありません。人間同士のコミュニケーションが希薄化していくのではないかとこの危惧もあります。

AI技術が進化していく中で、私たちが大切にしなければならないものは、人と人とのコミュニケーションです。「便利に生活する」とこと、「より良く生きる」とことのバランスを、真剣に考える必要があります。

2015年に『AIの導入によって日本の労働人口の49%の仕事が将来なくなる』というレポートが、野村総研とオックスフォード大学の共同研究によって発表されたことを思い出します。そこで、『AIにはできない、人間にしかできない職業は何ですか？』という質問をAIにしてみました。AIの答えは以下のとおりです。もちろん、これが絶対に正しいとは限りません。皆さんはどう思いますか。

『AIにはできない職業として、以下のようなものが考えられます』

- ① 芸術家や作家：芸術的感性や創造性が必要なため、AIにはできない。
- ② 教師やカウンセラー：人間の感情を理解し、個々のニーズに合わせた対応が必要なため、AIにはできない。
- ③ 医師や看護師：患者の病状を正確に判断し、適切な治療やケアを提供するために、人間の直感や知識が必要なため、AIにはできない。
- ④ 消防士や警察官：緊急事態に効果的に対処するために、人間の判断力や行動力が必要なためAIにはできない。
- ⑤ 社会福祉士やボランティア：人間の温かさや思いやりを必要とするため、AIにはできない。

「新たなスタートです」

副校長 池上 大輔

今年度は来賓をお招きし、在校生が列席しての入学式でスタートいたしました。対面式や学校公開に部活動保護者会と、4月から元の形式ですべてが実施できております。数年続いた行動制限のある学校の取り組みから抜け出せた、新たな光を感じる春でした。

学校公開日には、270人と大変多くの保護者の方にご来校いただきました。アンケートには進級後のお子様の学校生活の様子を見て、安心できたなどのお声を多くいただき、大変うれしく思います。

さて、5月にはいよいよ運動会が行われます。昨年度は3年ぶりの全校での運動会復活でしたが、まだ長い時間密集する・発声を要する種目など一部変更がされておりました。今年度は、昨年のような制限はなく運動会を元気いっぱい開催できそうです。しかし、安全に実施するためにも十分に健康観察等注意を払い、取り組んでまいります。ご協力よろしく申し上げます。

「1年生の様子」

学年主任 小城 吉寛

少し大きめの制服に袖を通し、中学校での新生活に期待と不安を抱きながら参加した入学式からおよそ1か月が経ちました。初めは同じ小学校出身の友人としか話せなかった生徒たちですが、クラスでのエンカウンターなどを通して繋がりが広がり、1年生らしい明るく活発な雰囲気が出てきました。教科の授業も本格的に始まりましたが、積極的に発言し、自分から学んでいこうという姿勢と雰囲気がどのクラスでも感じられます。何より、授業のはじめと終わりの挨拶が大きな声で、元気で、清々しい！これからゴールデンウィークを挟み中間考査、運動会と続いていきますが、教員もチームで見守りつつ、1年生の取り組みを応援したいと思っています。

「2年生の様子」

学年主任 隠田 亮介

2年生となり、中学校で初めてのクラス替え。新たに決まったクラスの大多数が去年とは異なるメンバーであるため、4月当初には新たな人間関係づくりに取り組みました。様々なエクササイズを通してお互いのことを少しずつ理解し、新たなクラスの仲間とのつながりを深めることができました。

また2年生は、先輩としての第一歩を踏み出す年でもあります。今年度の入学式では、数年ぶりに在校生として参列し、校歌紹介にも臨みました。今後も委員会や学校行事、部活動等で下級生と関わる経験を通して、中堅学年として学校を支える役割を果たせるようになってほしいと思います。

「3年生の様子」

学年主任 岩間 康行

新クラスになり1か月が経ちました。どのクラスも落ち着いて過ごすことができていると聞いています。3年生になり、最上級生として「頑張ろう！」という気持ちで日々を過ごしている生徒が多く見受けられます。学校のリーダーとして活躍してくれることを楽しみにしています。また、授業も一生懸命頑張ろうとする姿勢が見えています。夜遅くまで学習しているからか、門遅刻になる生徒が多く見受けられるのが心配ですが、生活のリズムを整え、早く登校できるようになると良いです。文武両道で頑張っているのだから、この調子で頑張ってくれることを期待しています。

■生徒の活躍■

<卓球部> 小平市民大会中学生の部

男子団体戦 優勝 Aチーム 女子団体戦 準優勝 Aチーム

男子シングルス 優勝 碓 孝之 5位 立平 絢大 5位 高橋 直希

女子シングルス 5位 楠本 紗也佳



<ソフトテニス部>

第10ブロック春季1年生大会 優勝 逸見・高比良組

小平市春季大会 女子団体戦 2年の部 準優勝 Aチーム 3位 Bチーム

1年の部 準優勝 Aチーム

<アルペンスキー>

ウィスラーカップ2023(日本代表選手として出場) 男子U14 大回転 優勝 小熊 健祐

■5月の主な行事予定■

| | | | | | |
|---------|--------------------------|-----|--------------------------|-----|---------|
| 1日 | クラス目標発表 | 16日 | 中央委員会 尿検査2次 | 22日 | 生徒会朝礼 |
| 2日 | 保護者会(1) | 18日 | 全国学力学習状況調査(3) | 23日 | 心臓検診 |
| 11日~12日 | 中間考査 | 19日 | 音楽鑑賞教室(2) | 24日 | 運動会予行 |
| 15日 | 全校朝礼 専門委員会 教育実習始 避難訓練 | | 薬物乱用防止教室(1・3) 学校運営協議会 | 27日 | 第59回運動会 |
| | | | | 29日 | 振替休業日 |